

Via Latina 22



総本部よりのお知らせーマリア会

2015年3月
241号

インド従属地区の司祭叙階式



1月22日、インド従属地区は喜びのうちに2名のマリア会員、Arul Raj F 士と Jinu Muthukattil 士の司祭への叙階を祝いました。叙階式の司式はBengaluruの大司教、Bernard Moras 閣下で、彼は今年で教区司教として10周年を祝います。

多くのマリア会員

と信者たちが叙階式に参列し、5ヶ国語で歌い、式に続く昼食を楽しみました。式進行はTamil語とMalayalam語にてRenny Markose士とXavier Raj師によって行われました。



Fr. Arul Raj F. and Fr. Jinu Muthukattil



最貧40ヶ国と過ごす40日間

毎年のごとくですが、マリアニスト家族は最貧国40ヶ国と過ごす40日間の四旬節キャンペーンを行っています。このキャンペーンのスペイン語の資料を次のホームページで入手出来ます: <http://www.40ultimos.org/>。

“四旬節に、私たちは神ご自身の慈悲深い視線で私たちの言葉と私たち自身を直視するよう招かれています。一方の目は主に向け他方は世界に向けるのです。

コロンビアでのマリアニスト50周年



サラゴサでまかれた種は芽を出し始めています。1965年3月26日にカラバンチェル（マドリードのマリアニスト共同体）で捧げられたミサで、最初の兄弟たちのコロンビア派遣が神に捧げられました。彼らはIgnacio Chapa師（故人）とJose Maeztu士（故人）で、3月30日に出発し翌日31日にボゴタに到着しました。一週間後、他の冒険者が到着しました。Cecilio de Lora師です。そして1966年José Arnaiz士（故人）がこのグループを完成させました。

2015年2月7日、総本部全員、地元のマリアニスト家族メンバー、友人たち、親族、そしてマリアニストに近い人々の列席の下、ボゴタの福者シャミナード小教区において最初の50年に感謝するミサ聖祭が捧げられました。式典の標語として、“神の御心からコロンビアの心に”が設けられました。

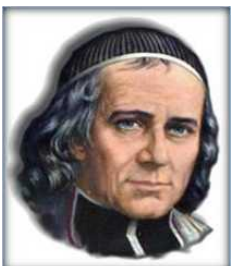
その朝、Fe y Alegria La Paz Palermo高校の多目的ホールにおいて、この50年の経験談、回顧談が、Cecilio de Lora師、地区長のRodrigo Betancur師、総長のManuel Cortés師、また種々の組織、修道会、そしてマリアニスト家族メンバーの代表者によって感動的に語られ披露されました。

神が私たちのそれぞれの生活の中で行われたことについての体験を語っている記念の小冊子“コロンビアとエクアドルのマリアニスト50年の歩み”が紹介され配布されました。式典は会食をもって終了しました。

総長は司式のミサで、私たちのこの50年間の“存在理由”はマリアのように御子に従うようわたしたちを招いておられる神であつたし、今もそうであること、をいつも心に留めるようにと強調しました。



祈りの意向



福者シャミナード師にマデレン・ブリスエラ (Madelén Brizuela) 夫人の病気治癒のために祈りましょう。彼女は30歳で進行性筋肉退化症に苦しめられ、現在は極めて容体が悪化しています。歩行も話も出来ず彼女の苦痛を引き起こしています。マデレンはキューバのベルティエンテスに住んでいます。これはマリア会Joaquin Briones師からの祈りのお願いです。

スペイン語による2週間のマリアニスト養成会議



養成会議の参加者

3番目で最後の養成担当者、霊生部長、教育部長の会議は、今回はスペイン語で、2015年1月12日～22日にボゴタで開催されました。André Fétis師、Manuel Cortés 師、Maximin Magnan士が中心となって会議が行われました。ラテンアメリカでの会議はほとんどの出席者の旅行を容易にし、また、ほとんどの人がスペイン語を話す志願者や会員であるという養成の背景が他の二回の会議よりも近いものでした。

英語とフランス語による前の二回の会議は2014年7月にローマで開催されました。この全三回の会議の目的は、総会の勧告を受け、関係する全ての行政単位において私たちの養

成への理解と実施を強化することでした。“マリア会養成指針”は、全ての行政単位の養成活動に対して、また、混合構成（2012年総会）、司祭養成、そしてマリア会における養成者の準備（総長評議員会）に関する最近作成されたほかの文書に対しても、基本的な指針を示しています。

行政単位の霊生部長と教育部長が出席したことは、養成が志願者と会員たちの人生の全ての段階を含んだ一貫した旅として考えられなければならない、という事実を強調するものでした。

同じ行政単位において、養成についての二通りの話し方、つまり、一つは初期養成の会員のため、もう一つは既にその段階を終えた会員のためというような話し方が有り得るはずがありません。ですから、養成担当者と各部長のそれぞれの貢献による協力は、この三回の会議の目標への奉仕において大変重要なのであり、また、生涯にわたる養成の価値を尊重することが非常に重要なのです。

1つの行政単位が、単独であるか他の行政単位との協力によるかを問わず、良い養成計画を持つ時、養成担当者をうまく選び、準備する時、養成担当者と行政単位の評議委員との協力がある時、行政単位の全メンバー自身が養成の重要性を価値認識する時、その時は、初期養成であるか継続養成であるかを問わず、その行政単位はその生活と使命を一体化した軌道に乗っているのです。それには疑いがありません。

この会議に積極的に参加された全ての出席者の皆さんに特別に感謝致します。私たちはお互い多くを学びました。もう一つはこの会議を受け入れてくれたコロンビア地区に感謝せねばなりません。組織をあげて惜しみなく手伝ってくれました。彼らのお蔭で、私たちは素晴らしい兄弟愛の体験をすることができましたし、コロンビアの文化を味わい、ボゴタの活動的なマリアニスト家族を高く評価することができました。私たちはこれら三つの会議が全てのマリアニスト行政単位の生活に多くの実りをもたらすことを願っています。

マリアニスト使徒事業体委員会の会議

マリアニスト使徒事業体のアイデンティティ：

先の総会から指示をうけてから、総長評議委員会は、教育部を通して、マリア会の使命に相応しい“マリアニスト的”であると考えられる独特な事業を特徴づける諸条件の設定に向けて作業を行ってきました。このプロセスの仕事を補佐するために設けられた委員会の助けを通して、いくつかの調査が既に実施され、その結果が評価され検討されてきました。マリア会教育局長E. Maximin Magnan士は“マリア会三部門”の回章を通してこのことについて多くの情報を分かち合ってきました。回章：（137号 2013年3月、139号 2014年1月、141号 2014年10月）



L-R: Bernard Vial (FR), Tom Oldenski and Jack Ventura (USA), Rogelio Núñez (ES-Spa) et Maximin Magnan (GA)

2015年2月3日～5日、総本部Maximin Magnan士、スペイン管区Rogelio Nuñez士、フランス管区Bernard Vial師で構成される委員会が作業継続のためローマに集まりました。アメリカ管区Steven Glodek士は同じメンバーですが健康上の理由で参加出来ませんでした。

Jack Ventura士 (ICMF) とTom Oldenski士が委員会に加わり、調査と情報収集を手伝いました。この会議の目的は、データーを統合してその分析を総長評議員会に提出し、この夏にローマで開催される総指導者会議に備えることでした。この総指導者会議の間に、総長評議委員会はこの作業についての報告を行い、他のGLAメンバーと一緒に2018年の総会に具体的提案を行うという最終的な目標を持って次の段階を計画することになります。

この会議の間に二回、委員会は総長評議委員会と会合を持ちました。総長評議委員会は作業委員会が成し遂げた仕事、特に、多くのデーターを収集したこと、また世界中の会員と信徒の協力によってこの話題に関する関心を高めたこと、に対し感謝の意を表しました。さらに総長評議委員会は、調査に応えてくれた人たち、およびこの過程でそれぞれの考えを分かち合ってくれた人たちに感謝しました。作業は継続しているので、これら考察は引き続き進行中の識別の重要な要素となります。

私の召命物語についての分かち合い



2014年12月のVia Latina 22で述べられたように、奉獻生活の年に私たちは兄弟たちの召命に関する証言を発行したいと思います。最初の証言はすでに提出され、ウェブサイトに公表されました www.marianist.org の奉獻生活の年のページを開けて下さい。皆様のご自身の証言を次のアドレスに送付して下さい：
secretariatsm@smcuria.it。出来ればあなた自身の写真を添付し

て下さい。（Via Latina 22 238号 の4ページの質問を見て下さい） ありがとう。

マリアニスト家族の日

「過去2年間、聖マリアお告げの祭日に、私たちはマリアニストの召命について強調してきました。これからは、この祭日をマリアニスト家族の日とし、それ故、私たちの保護の祝日とすること、すなわち、マリアの喜びと熱意に溢れる応答に支えられた教会における私たちのマリアニスト召命に感謝する機会とすることを決定しました。」

(マリアニスト家族世界評議会、2013年11月)

3月25日はみ言葉がマリアの胎内に宿った祝日です。すなわち、それはマリアの召命の祝日であり、



マリアの“フィアット”の祝日です。それゆえ、それはこの世界でマリアの使命を継続することを意味する私たちマリアニストの共通の召命の祝日でもあるのです。それでこの祝日は、マリアニスト召命を生きる上での相互の励まし合いに向けて私たちが“家族”として絆を結び直し、この召命を新たにし、それを一緒に祝うのに最も相応しい一日です。

毎年行っているように、この祝日に他に地域的な計画がない場合に備えて、マリアニスト家族世界評議会はこの日を祝う助けとなる黙想と祈りのための提案を行ことにします。

総本部通信 最近の送信

- **訃報**：# 4 - 7
- **2月2日**：3部門 143号 — “共同生活と私たちの清貧の誓願” 3ヶ国語でマリア会財務補佐 Michael McAward士から全行政単位の責任者宛て送付
- **2月13日**：3部門 144号 — “連帯と養成基金2015年” 3ヶ国語で財務補佐 Michael McAward士から全行政単位の責任者宛て送付

総本部日程

- **2月22-3月8**：総本評議員全メンバーによるペルー地区訪問継続
- **3月12-15**：ローマ総本部での財務委員会会議
- **3月13-15**：マリア会 André Fétis 師と Martin Solma 師のローマ国際神学校訪問
- **3月17-19**：ローマ総本部での拡大総長評議員会 会議

